＜こんにちは「亀岡市長」＞

亀岡全体を“ガーデンミュージアム”に

桂川孝裕さん（京都府亀岡市長）
高橋直樹さん（京都自治総研副理事長･自治労京都府本部執行委員長）
司会／岡本哲也さん（京都自治総研専務理事･自治労京都府本部書記長）

岡本　今日はお忙しいところ有り難うございます。市長は、2003 年に亀岡市議会議員に初当選され、1 期を務められた後、京都府議会議員になられました。一昨年 11 月には、亀岡市長選挙に立たれ、みごとに当選されましたが、プロフィールを見ますと、大学は東京で、ご出身も京都ではないということですが。

職員時代は、造園の知識を活かして亀岡を花と緑の街に！

桂川　私は、もともと教員でした。出身は岐阜県で、東京農業大学を卒業したあと、南丹市にある京都府立農芸高等学校に造園の教師として赴任しました。教師時代に、亀岡市の 4 代目市長だった谷口義久さんと出会い、「1988 年に開催される京都国体に間に合わせるため、亀岡運動公園を整備しないといけない。造園の技術者が市にいないので、ぜひとも」と声がかかり、市役所の職員に転職しました。

職員になって 1 年ほどで、（財）亀岡市都市緑花協会へ出向しました。それから 14 年、運動公園や市役所周辺、西山平和塔、「ガレリアかめおか」のバラ園など、造園の知識を活かした設計・工事を手がけることができました。

協会が発足した当時、職員は課長と私の 2 人。何をしようかと考え、JR 亀岡駅前や市役所の花壇などに花を植えることにしました。1 人で花を植えていると「きれいな花ですね」「ご苦労さんですね」と声をかけていただける。花と

いうのは、人の心を開くもんだなと感じました。

しかし、1 人では大変なんですね。当時、造園家も花を得意とする人が少なかった。それならば、市民の花好きの人に協力してもらおうと、協会主催の園芸教室にいつも来てくれる常連の皆さんに声を掛け、「花と緑の会」を設立しました。駅前や街路の花壇に、ボランティアで花を植えて、美しい街づくりに協力してもらいました。プライベートでは、花好きの人を集めて、ニュージーランドのクライストチャーチで行われているオープンガーデンや花祭り、イギリスのハンプトンコートのフラワーショーを見に行きました。ニュージーランドの花祭りを見に行った帰りの飛行機で、亀岡で「花と緑のフェスティバル」を開催しようと思い立ったのです。第 1 回は、その年の 4 月に「ガレリアかめおか」で開催。それ以降、毎年 4 月に開催され、今では「春の 3 大イベント」になりました。

その他にも、市内にある古木・巨樹を自分一人で調べて、樹木台帳を作り、学識経験者による選定委員会を設けて検討し、『亀岡の名木』という本も出版しました。

岡本　亀岡市民にとって、まちにこんな希少価値の高い名木があるとわかれば、自然に対する関心が高まりますし、誇りにもなりますね。

桂川　行政は、トップが代わると重点施策も変わります。谷口市長が代わったことで、私の役割は終わったと思い、市会議員に出馬しました。39 歳の時です。選挙は、当時、歴代最高の得票を得て、トップ当選させていただきました。

市会議員を 1 期 4 年務めたあと、無所属で府会議員に出馬しました。厳しい選挙戦でしたが、お陰でトップ当選させていただきました。

高橋　府会議員は、当然、地元亀岡のことを考えなければなりませんが、京都府全体についての視野も必要です。府会議員を経験された市長は、よく、府会議員の経験が役立っていると言われます。

桂川　いろいろな方とお付き合いさせていただいたことで、人的ネットワークと視野が広がったことは確かだと思います。行政は、京都府や国とのつながりがないと、自治体だけの財源では運営できません。そういう面では良かったと思います。府会議員時代に、栗山前市長が「京都スタジアム（仮称）」の誘致に手を挙げられたので、一緒にその推進に取り組みました。

「アユモドキ」を活かしたまちづくり

高橋　一昨年の市長選では、「京都スタジアム（仮称）」建設予定地周辺に、絶滅危惧種に指定されている「アユモドキ」が生息しているということで、自然環境の保護が大きな争点になりました。市役所の 1 階ロビーには、たくさんの「アユモドキ」が飼育されている水槽を展示しておられますね。

桂川　「京都スタジアム（仮称）」予定地の用地買収に 14 億円かかりました。そこから移転することになったので、逆に「アユモドキ」を活かしたまちづくりをしようと思っています。地元では、「アユモドキ米」なども売られています。

高橋　「京都スタジアム（仮称）」は結局、JR 亀岡駅の目の前に建設されることになりました。新聞に大きく取り上げられたりしたので、「アユモドキ」も一躍有名になりました。

桂川　昔は、この辺にいくらでもいたようです。日常的に捕って食べていたとか。「アユモド

キ」は、河川の氾濫や水田の灌漑によってできた一時的な水場で、流れが緩やかで水草が繁り、一定期間水位が下がらないようなところで産卵するという習性があります。地元住民の協力により、農業用水路の水を止めて田んぼを乾かす中干期には、水がかれた水路に取り残されたアユモドキの救出活動を行っています。

健康・観光・環境で賑わいのまちに

岡本　市長が掲げておられる「かめおか・未来・チャレンジビジョン」の８つの柱の１つに「健康・観光・環境で賑わいのまち」があります。「京都スタジアム（仮称）」は、市民の健康づくりという観点からも活用できますね。

桂川　元気に長生きするには、スポーツを日常的にやることも必要ですから、スポーツにも力を入れています。空手の世界大会で優勝した荒賀龍太郎選手は、亀岡の出身です。そういうご縁もあって、東京オリンピックに際しては、オーストリアのホストタウンに名乗りを上げ、登録いただきました。姉妹都市であるオーストリアのクニッテルフェルト市やオーストリア空手協会とも連携し、準備を進めていきます。

「京都スタジアム（仮称）」は、京都サンガのホームスタジアムとなります。京都サンガの選手と、亀岡の子どもや市民とが交流できるよう、今年４月に、職員を１人派遣する予定です。

また、亀岡は、京野菜を多く作り、最大の産地です。丹波大納言小豆や丹波くり、丹波松茸は有名です。丹波大納言小豆が採れることから、京都の老舗の鶴屋吉信さんの工場が、市内に竣工予定です。今後、東京と関西にある工場を閉鎖し、亀岡に集中移転されるそうです。

高橋　市は、そういう企業を誘致するために、力をいれておられるのですか。

桂川　積極的に誘致を推進しています。今後京野菜を冷凍加工し、シンガポールや香港の日本料理店に輸出する会社も亀岡で創業する予定です。関西や東海圏の病院や介護施設へ、1 日に 10 万食を送り出す給食工場も現在建設中です。

もともと、亀岡は「京の都の台所」と言われていました。京都府全体の農地の約１割が亀岡にあります。優良な農地が多いのも特徴です。京都特産の「千枚漬け」に使われる聖護院かぶは、100 %が亀岡産です。亀岡産の蕪は他の産地のものより高く取り引きされています。それだけ良質だということです。土も良質ですが、霧の出る日が多いことが、いい野菜を作るのに適しています。

岡本　伏見桃山城の近くを通る、私の通勤路からは、亀岡に霧がかかると見えるんです。

桂川　亀岡に住んでいる人は、霧が出ると洗濯物が乾かないとか、お化粧が崩れるとかいって、いやがるんです。霧は、大地が呼吸しているように、田んぼや川から一気に出てきます。15 分ほどで真っ白になる。霧は、亀岡の自然が豊かなことのバロメーターです。この町に霧が出なくなったらコンクリートジャングルになる。霧があるから良質な農産物が育ちます。

高橋　現在、国をあげて「観光立国」をめざしています。亀岡の観光というと、まず湯の花温泉が思い浮かびます。私も何度か訪れたことがありますが、観光客の増加をめざす取り組みには、どんなことを考えておられますか。

桂川　亀岡の「3 大観光」は、トロッコ列車、保津川下り、湯の花温泉です。トロッコ列車は年間 120 万人くらい、湯の花温泉は 20 万人くらい、保津川下りも 20 ～ 30 万人くらいが利用

されています。

京都縦貫自動車道が全線開通したことで、いろいろな効果が生まれています。亀岡は京都府の背骨の真ん中あたりに位置しています。丹後からも約1時間、木津川市からも約1時間で来られます。JR を利用すると、京都駅から快速で 20 分です。だから、亀岡は「トカイナカ」だと思っています。

高橋　最近、自然環境が重視されてきているので、「田舎」であるということは、ある意味でチャンスですね。

桂川　『週間少年ジャンプ』に、40 年間連載されていた「こち亀」が終わりました。作者の秋本治さんは、今年2月から、亀岡を舞台にした新しい連載マンガを描かれるそうです。「亀有」と「亀岡」、「亀」つながりです。4 人の女学生がカメラを持って、亀岡や京都市に行く内容だとか。京都市に近くて、なおかつ昔ながらの雰囲気が残り、農村地帯もある。そういう町で学生が活躍するストーリーにされるそうです。亀岡にとっては大変、嬉しいニュースです。

高橋　人気雑誌に連載というのは、相当な PR 効果がありますね。

岡本　交通でいうと、整備新幹線は、一時「小浜－亀岡」ルートも検討されていましたが、結局「小浜－京都」ルートで決まりました。

桂川　亀岡は、40 年前から「小浜－亀岡」ルートを掲げて運動してきましたので、残念です。また、交通に関して、私は、国道9号のダブルルートを整備してほしいと思っています。2013 年の台風 18 号のときは、京都縦貫自動車道も国道 9 号も通行止めとなりました。その後も 3 年続けて、京都縦貫自動車道や国道9号が通行止めになりました。そのため、「京都－亀岡」のルートを補完する道がほしいのです。

2 つの案があって、1 つは篠インター付近から京都市の大原野インター付近に繋がるルート。もう一つは、亀岡の川東地域と京都市嵐山の新丸太町通りに繋がるルートです。どちらでもいいので、国道9号のダブルルートがほしい。

市民力で未来を拓く

岡本　「まちづくり」には市民の力が欠かせません。市では、市民の提案した事業に、市民税の1％を補助するということですが、どのような内容ですか。

桂川　まちは市民のものですから、市民自らが、どんなまちにしたいかを具体的な形にした活動を応援します。それによって町が活性化します。公募で事業を提案してもらい、それに対して税収の1％を限度に補助するものです。

市民や NPO の活動は、行政では手の届かないところをカバーしています。亀岡保健センターの子育て世代包括支援センターは、公募で NPO に委託しました。対象は産前産後のお母さんだけではなく、お父さんも含まれます。昨年 10 月にオープンし、動きだしています。

子育て・教育で憧れのまちに

岡本　子育て世代の人たちに住んでもらうためには、子どもを育てやすい環境を整えることが重要ですね。

桂川　亀岡は、京都市から近いし、昔ながらの田舎の風景があります。そういう環境で子育てをしたい若い世代はたくさんいます。JR に 30 分乗れば、京都の有名高校にも行けます。

昨年 11 月には「イクボス宣言」をしました。私を含め市の管理職以上の職員 122 人が賛同し、子育てを気兼ねなくできる職場環境をつくっていきます。上司が積極的に推進していく取り組みを、亀岡市役所から市内の企業や団体にも広げていきたいと考えています。

1 歳児の子どもを保育園に預けて働きたいお母さんが増えました。亀岡も待機児童はいますが、今年4月には新たに保育園の分園ができます。さらに整備を進め、来年には待機児童をゼ

ロにできる予定です。また、学童保育は、現在、対象が小学校3年生までですが、今年から6年生まで広げます。それには人と場所が必要なため、子どもたちが少ないところは早めに6年生まで拡大し、マンモス校は場所を検討しながら4 年生、5 年生と順次引き上げていきます。また、仕事の関係で遅くなる親もおられますから、保育園や学童保育を夜7時まで延長することを検討しています。

高橋　待機児童の解消は、掛け声はあっても、人と施設の問題が大きく立ちはだかり、財源の問題でなかなか進まないところが多いようです。

財政難を克服する人材育成

桂川　どの自治体も財政が厳しいですね。それを克服するにはマンパワーしかないと思います。亀岡市の職員は、正職員が620人、嘱託職員と臨時職員を含めると 1000 人くらいです。職員が、仕事にやりがいや生きがい、誇りをもって取り組むことができる環境をどうつくるかが、私の大きな仕事です。

職員の声を聞くため、職員とランチ・ミーティングをしています。お昼に時間がとれるときには必ずします。最初に係長、副課長、課長、部長、退職者。次に、新採、2 年～ 5 年、5 ～10年、10 ～ 15年の職員を、順次6人ずつ招いて、1 時間、お弁当を食べながら対話しています。この1年で500人くらいになりました。職員の声を直接、聞くことによって、そこから施策が生まれることもあります。

また、新しい取り組みでは、「かめおかって“いいね”プロジェクト」があります。これまでも職員からの提案制度がありましたが、提案するための調査に時間がかかるなどハードルが高かった。そこで、身近な気づきや、ちょっとしたアイデアを気軽に提案してもらって、「いいね」と思える提案を実現させていく取り組みを始めました。今年度は200件ほどのアイデアが出てきました。それを一つ一つ、市長、副市長、各部長がチェックし、すぐ施策に活かすもの、もう少し練る必要のあるもの、却下するものなどに分けました。そのうち数件は施策に反映できました。

職員のアイデアが実現すれば、やりがいが生まれます。意見をダイレクトに提案できる制度があれば、風通しの良い組織になります。

高橋　職員は、現場で仕事をしているため、改善や改革のためのアイデアを、たくさん持っています。それを気楽に提案できる制度があれば、モチベーションも上がります。

桂川　やりがいを感じられる職場づくりをすれば、職員のモチベーションが上がり、結果として市民サービスの向上につながります。

どこにどんな職員がいるかを知るために、去年から各課の朝礼に参加しています。今朝は消防署にいきました。

高橋　職員に身近な市長ですね。

桂川　もともと僕も職員でしたからね。職員には、「お金がなくても、できることがある」と言っています。婚姻届けを出しに来た人に、市民課の職員全員が立ち上って「おめでとうございます」というだけでも、来た人は嬉しい。記念品を渡すとか、記念写真を撮影するなどのアイデアはありましたが、お金を使わずマンパワーだけでできることはたくさんあります。「ポジティブな発想で、挑戦的に取り組んでほしい」と常に言っています。

高橋　私は、京都市に採用された当初、窓口で婚姻届を受理していました。その頃は、行政手続きとしてしか考えておらず、市民の気持ちまで考えることはありませんでした。そういう対応ができれば、職員は意欲をもって市民対応できると思います。

亀岡全体を「ガーデンミュージアム」に

岡本　市長は造園が専門と言うこともあって、

職員時代も含めてまちの緑化に深く関わってこられました。今後、緑化など、どんなまちづくりをお考えですか。

桂川　先日、大学の先生に来ていただいて、「ガーデン・プロジェクト」と「ネイチャー・ミュージアム・プロジェクト」を合わせた「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想について話し合いました。足立美術館は庭園も美術作品です。この構想も、そんなイメージですね。日本の原風景を再生すると同時に、新たな風景をつくり出します。

「ガーデン・プロジェクト」は、亀岡を花と緑の庭園都市にする構想です。植栽はもちろん、コンクリート塀に焼き杉の板を張ったり、コスモス園やききょうの里、また、スポットガーデン、ウェルカムガーデンなどを、まちのあちこちに作ったりします。

「ネイチャー・ミュージアム・プロジェクト」は、まち全体をひとつの博物館にする構想です。丹波国分寺の跡地をはじめ、文化、遺跡、史跡全体を含めて、全体を博物館にしたいと思っています。

亀岡のグランドデザインを、大学と連携して「ガーデン」的なイメージと、「ネイチャー・ミュージアム」的なイメージとを合わせもったまちにしてく予定です。

私は、何年、市長として仕事ができるかわかりませんが、亀岡市の長い歴史のなかの一区間を担って、将来につなげていく仕事をしたいと思っています。

「ガレリアかめおか」は、1998 年の建設当初、「箱もの行政」だとして反対の声があがりました。220 億円かかっています。今年、18 年間の返済がやっと終わりました。昨年の 10 月には、皇太子殿下にお越しいただきました。亀岡会館、中央公民館の建物が耐震不足のため使えなくなっているなかで、「ガレリアかめおか」があることで、市民活動、生涯学習活動ができています。「ガレリアかめおか」はレガシーと言える施設となってきました。

「京都スタジアム（仮称）」も同じだと思います。これによってどれだけ亀岡のイメージを変えていけるのか。亀岡のサッカースタジアムが、テレビの全国ネットで放映されれば、亀岡をアピールできます。また、子どもたちが、身近に選手の試合を見ることで、将来、亀岡からプロのサッカー選手が生まれるのではないかと期待しています。

市長になって、前の市長からの遺産を引き継ぐと同時に、私にしかできないことにも取り組んで、亀岡市の歴史の一区間を担わせてもらう。将来を見据えて必要なもの、大切なものを残していきたいと思っています。

「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想で、亀岡の魅力や宝を、形として作りあげていきたいと思っています。美しい風景がふるさとの風景になることで、子どもたちがふるさとに残りたい、ふるさとで仕事をしたい、いずれは帰りたいと思うようになってほしい。子どもは、小さい時の思い出をたくさん持つことで、将来、それが力になります。そのためにも、計画を進めていきたいと思います。

高橋　造園を専門としてこられた市長ならではの発想ですね。花は人の気持ちを和やかにしますし、自然は子どもの生活を豊かにします。

桂川　自然はすばらしい。自然をどう活かすかが重要です。昔の造園は、バックの背景も借景として取り入れていました。そういう発想で、亀岡全体を美しいまちにしていきたいと思っています。それがいずれ、亀岡の遺産になると思います。

岡本　今日は、お忙しいところ、お時間をいただき有り難うございました。たくさんのお話をうかがい、市長の亀岡に寄せる思いを充分に知ることができました。今後とも、市民のためにご活躍されることを祈念して、これで終わりたいと思います。